

【教員氏名】

島田 克彦
 研究室:聖アンデレ館 8 階 830 号室
 メールアドレス:shimadak@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

この授業では、近代日本社会が経験した戦争の歴史を講義します。第二次世界大戦の基本的な性格として、戦争による一般市民の犠牲者数が軍人を大きく上回ることが挙げられます。この授業では、大戦末期の大阪大空襲と沖縄戦を取り上げ、その実態、歴史的背景、および戦後社会へのつながりについて、具体的に考察していきます。かつて戦争を経験した日本社会について学ぶことで、歴史を生きた人々の生のあり方にも触れてほしいと思います。その学びが、本学の養成する「世界の市民」に近づくための糧となるでしょう。

【学習目標】

1. 大阪大空襲と沖縄戦に関する基礎知識を身につけること。
2. 戦争体験者の証言に触れて、人々の生のあり方を理解すること。
3. 戦争の経験を基礎として成り立つ日本社会のあり方について、自分なりの意見を持つこと。

【講義計画】

第 1 回:オリエンテーション 授業の進め方や期待する学びについて伝達します。

第 2 回:授業の導入

第 3 回:大阪大空襲(1) 第二次世界大戦末期の本土空襲

第 4 回:大阪大空襲(2) どのように行われ、どのような被害が生まれたか

第 5 回:大阪大空襲(3) 都市無差別爆撃の歴史的位置

第 6 回:大阪大空襲(4) 空襲体験者たちの戦後

第 7 回:中間まとめ

第 8 回:沖縄戦(1) 民衆を巻き込んだ地上戦

第 9 回:沖縄戦(2) 生きのびる人々

第 10 回:沖縄戦(3)「銃剣とブルドーザー」—戦後の沖縄

第 11 回:沖縄戦(4) 沖縄の大地と米軍基地—戦後の沖縄

第 12 回:中間まとめ

第 13 回:戦後社会の出発(1)

第 14 回:戦後社会の出発(2)

第 15 回:試験とまとめ

【成績評価の方法】

試験評価:40% レポート:30% 出席:30%

試験は、授業内容に関する論述とします。

レポート課題を2回予定しています。2回とも提出することが単位修得の条件です。

「出席」は「平常点」と理解すること。毎回の課題を提出し、相応の結果を出すことで平常点が蓄積されます。

着実に、粘り強く、学習を積み重ねていきましょう。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

小山仁示『(改訂)大阪大空襲—大阪が壊滅した日』東方出版、1985年

江口圭一『大系日本の歴史 14 二つの大戦』小学館(ライブラリー版)、1993年

荒井信一『空爆の歴史—終わらない大量虐殺』岩波書店(新書)、2008年

東京大空襲・戦災資料センター編『東京・ゲルニカ・重慶』岩波書店、2009年

新崎盛暉『現代日本と沖縄』山川出版社(日本史リブレット)、2001年

林博文『沖縄戦と民衆』大月書店、2001年

木畑洋一『第二次世界大戦—現代世界への転換点』吉川弘文館(歴史文化ライブラリー)、2001年

木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店(新書)、2014年

その他、適宜紹介します。

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

配布資料をもとに次回の授業について予習すること。その達成度を授業開始時の課題で自己チェックしていきます。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】